

科学の楽しみを運ぶ～学生隊～

代表者 江原裕太郎（工学B 4年）
構成員 足達侑介（理工M2年） ZHANGSHUAI（工学B 4年） 柳井佑美（工学B 4年）
岡本賢吉朗（工学B 4年） 土佐美幸（工学B 4年）
重成早紀（工学B 3年） 永田景子（工学B 3年）
池田風花（理工M1年） 大工原幸夫（工学B 2年）

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、子どもたちに科学の楽しさを知ってもらうことと学生の社会人基礎力の向上を目的としている。子どもたちが科学に興味をもち、科学に対して「面白い」と思ってもらえるように、小中学校やイベント会場で科学実験を披露したり、工作教室を開いて子どもたちと一緒に工作をする等の活動を行う。

2. 活動内容

・工作教室

上半期の活動として、「夏休み工作教室」を実施した。子どもたちと「科学的要素を含んだものづくり」をするという企画である。

企画詳細

企画名：夏休み工作教室

開催日時：8月7日（金）

① 10:00～12:00

② 14:00～16:00

の計2回

開催場所：山口大学工学部

対象：宇部市内小学校の5～6年生（参加人数は①は9人、②は10人）

ものづくりのテーマ：電子ペン、偏光板

数年前から毎年夏休み中に開催している企画であり、今年度は電子ペンと偏光板ボックスを子どもたちと製作することに決定した。数か月前から企画内容の話し合い、材料の準備等を進めていった。電子ペンでは紫キャベツの液が水溶液の性質によって色が変わるのを利用し、水溶液の性質を理解してもらった。



写真1 電子ペン

偏光板ボックスは、偏光板は光をある一定の方向しか通さない性質をもっている。この性質を利用したマジ

ックボックスを作ってもらい、光や偏光板の性質を理解してもらった。



写真2 偏光板ボックス

企画の難航はあったものの、無事8月7日に夏休み工作教室を実施することができた。子どもたち3、4人を1つの班とし、3班に分けてハンダ付けを1班ずつ行い、電子ペンの工作を行った。最後の班の絵を描く時間が少なくなったので、予定より20分延長した。次に偏光板の工作を行った。電子ペンが予定の時間よりも長くなってしまったため、組み立てた後に作品に絵を塗ってもらう予定であったが、時間がなかったためカットした。その後、アンケートを書いてもらい、写真撮影を行った。誰一人けがをすることなく、無事工作教室を終えることができた。

今後の参考のために、企画終了直前に子どもたちにアンケートを書いてもらった。後日集計した結果、9割の人がまた行きたいと回答した。また、工作教室で一番面白かったことを聞いたアンケートでは、ハンダ付けと紫キャベツで絵を描いたことの意味が大半であった。

今年の活動でも、去年と同様に練習時間を十分に確保することができなかった。次の活動ではしっかりと計画をたて、余裕をもって本番に臨めるようにしたい。



写真3 工作教室の様子

4. 今後の予定

WAKUWAKU フェスタ (10月)